

# 令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援) 事業報告書

自治体名   広島県  

## 【基本情報】

施設・事業所種別 (指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)
<b>障害者支援施設</b>
職員数(常勤換算数) 【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休・休職は除く)】
<b>22.7 人</b>

### (1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別:  移乗介護       排泄支援       入浴支援  
 移動支援       見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) 見守り介護ロボットaams      11台

### (2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

#### ① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	21 人	1,640 件	19,680 件	3 分	20,664 人時間	47 時間
	2 排泄介助・支援	21 人	2,400 件	28,800 件	15 分	151,200 人時間	343 時間
	3 生活自立支援(※1)	25 人	1,200 件	14,400 件	10 分	60,000 人時間	96 時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	24 人	360 件	4,320 件	15 分	25,920 人時間	45 時間
	5 その他の直接介護	25 人	2,400 件	28,800 件	10 分	120,000 人時間	192 時間
間接業務	6 巡回・移動	21 人	360 件	4,320 件	12 分	17,539 人時間	40 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	24 人	1,200 件	14,400 件	30 分	172,800 人時間	300 時間
	8 見守り機器の使用・確認	25 人	300 件	3,600 件	1 分	1,500 人時間	2 時間
	9 その他の間接業務	25 人	2,400 件	28,800 件	5 分	60,000 人時間	96 時間
			12,260 件	147,120 件	101 分	629,623 人時間	1,161 時間

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援  
 ※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

#### <※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

令和6年4月 1 一日4回×17日×利用者数10人+風呂日6回×13日×10人+体位交換2回×3人×30日 2 一日8回×30日×対象利用者数10人 3 一日1回×30日×対象利用者数40人 4 一日1回×30日×対象利用者数12人	5 一日2回×30日×全利用者数40人 6 夜勤時4回×2フロア+個別巡視4回×30日 7 一日1回×30日×対象利用者数40人 8 一日5回×30日×使用利用者数2人 9 一日2回×30日×全利用者数40人
--	--

#### <※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

6 全体巡視15分一日8件 個別巡視5分一日4件  
 他の項目については、複数の対象職員へ聞き取りによって時間を算出

#### ② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	21 人	1,640 件	19,680 件	3 分	20,664 人時間	47 時間
	2 排泄介助・支援	21 人	2,400 件	28,800 件	15 分	151,200 人時間	343 時間
	3 生活自立支援(※1)	25 人	1,200 件	14,400 件	10 分	60,000 人時間	96 時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	24 人	360 件	4,320 件	15 分	25,920 人時間	45 時間
	5 その他の直接介護	25 人	2,400 件	28,800 件	10 分	120,000 人時間	192 時間
間接業務	6 巡回・移動	21 人	900 件	10,800 件	8 分	28,728 人時間	65 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	24 人	1,200 件	14,400 件	30 分	172,800 人時間	300 時間
	8 見守り機器の使用・確認	25 人	3,300 件	39,600 件	1 分	16,500 人時間	26 時間
	9 その他の間接業務	25 人	2,400 件	28,800 件	5 分	60,000 人時間	96 時間
			15,800 件	189,600 件	97 分	655,812 人時間	1,210 時間

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

#### <※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

令和6年4月 1 一日4回×17日×利用者数10人+風呂日6回×13日×10人+体位交換2回×3人×30日 2 一日8回×30日×対象利用者数10人 3 一日1回×30日×対象利用者数40人 4 一日1回×30日×対象利用者数12人	5 一日2回×30日×全利用者数40人 6 夜勤時4回×2フロア+個別巡視22回×30日 7 一日1回×30日×対象利用者数40人 8 一日10回×30日×使用利用者数11人 9 一日2回×30日×全利用者数40人
--	---

#### <※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

6 全体巡視15分一日8件 個別巡視5分一日22件  
 他の項目については、複数の対象職員へ聞き取りによって時間を算出

年間業務時間数想定削減率(%)

-4.2%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

--

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

簡易的な離床センサーを使って、ご利用者の移動確認をするだけにとどまっていたが、パソコン、タブレット等でご利用者の状態が確認できること、移動時にも携帯できる事で、夜間時など介助者が少ない時間帯に有効である。  
少ない勤務者で業務をする際の介護者の安心感にも大きく繋がっている。

(5)今後の課題

無人での見守りがさらに効果的に実施できるよう、見守り介護ロボットの性能について精査し必要なオプションを加えていくこと、記録データを定期的に抽出し、各人の平均的な状態を共有するシステムが必要である。

(6)気づき等について

複数のご利用者の状態を事細かに把握はできるようになったが、都度情報がわかることによって個別確認の回数が増えた。ご利用者の安全に大きな効果を認めるが、介護者の労働軽減には繋がっていない。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

Wi-Fi環境整備、パソコン台数を増加、ナースコールの見直し、業務スケジュールと支援手順書作成により業務の見える化、オンライン教育システムの導入による支援力強化など実施

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。

職員数の不足と新型コロナウイルス感染症の影響で余暇での外出ができないなど、外部と接触する機会が激減していた。その為にご利用者の方が精神的に安定できないなど様々な影響があったが、今年度より外国人の特定技能実習生4名が従事できるようになり、少しづつ日中の関わりにゆとりが持てるようになりつつある。日本に慣れ、業務を覚えていければ、更にご利用者へのサービス提供を充実したものに出来ると考えている。